



金沢 力  
(公明党)

**宇都宮駅東口地区  
整備事業の進め方  
を問う**

**問** 駅東口地区は県都・宇都宮市の玄関口であり、にぎわいや風格を備えた魅力ある都市拠点を形成することが重要と考える。また、事業化については、LRTの運行開始に合わせて実施するのが望ましいと考えている。

① 駅東口地区整備事業の今後の見通しについて聞く。

② 暫定利用は28年度末までとのことだが、29年度以降の取り組みについて聞く。

**答** ① 建設費の高騰は、技術者の慢性的な不足が続く中にあるは、横ばい状態で続くとの見方もあり、事業の実現性の見

極めが難しい状況にあるが、早急に事業の進め方を意思決定したいと考えている。

この決定にあたっては、

民間の施設計画の検討結果などを踏まえ、地区全体の本格整備のほか、導入可能な施設を街区ごとに段階的に整備するなど、柔軟な事業化方を検討した上で、できるだけ早い時期に事業の進め方について決定していく。

② 28年度末で期間満了となる暫定利用については、駅東口地区整備事業の今後の進め方を踏まえ、早急に決定していく。

その他の質問項目



▲駅東口地区暫定利用の様子

① 保健福祉行政(地域包括支援センター)の機能強化、骨髄移植ドナー助成制度、産後うつ早期ケア②安全・安心、住みよいまちづくり(奈坪川、石川の浸水被害対策、道路の無電柱化)③食品ロス削減の推進④子どもの家等事業



角田 充由  
(自民党)

**総合事業開始に向け  
丁寧な情報提供を**

**問** 高齢者の介護予防や生活支援サービスの充実に向け、総合事業が、29年4月からスタートする。

① 事業を円滑に進めるためには、サービスや支援を必要とする高齢者だけでなく、サービスの提供事業者や自治会など多様なサービス担い手となる各種団体に対してより丁寧な情報提供や事業周知に取り組むことが必要と考えるがどうか。

② 関係者のネットワーク化などを担う生活支援コーディネーターの役割が大変重要であるが、今後どのように配置を進めるのか。

説明会を開催し、12月には広報紙を活用し、広く周知を図った。今後は、自治会や民生委員などを対象にした説明会や、サービス提供事業者などを対象にした研修会の開催に取り組んでいく。

② コーディネート機能を十分に発揮できる生活支援コーディネーターの選定に向け、現在、社会福祉審議会からの専門的な意見を聞きながら検討している。地域の実情に応じた継続性のある配置が望ましいなどの意見を得ており、実効性あるコーディネーターを早期に配置できるよう、引き続き検討を進めていく。

その他の質問項目

① 市長の政治姿勢(LRT事業、公共交通ネットワークの利便性向上に向けた取り組み、姿川地区における地域内交通)②障がい者政策(バリアフリーマップなど)③健康ポイント事業④一条中学校跡地の利活用⑤文化遺産を活用した宇都宮活性化プロジェクト



福田 智恵  
(市民連合)

**地域共生社会の  
実現に向けて**

**問** 公的福祉サービスでは、支援を必要とする方のニーズの多様化・複雑化に伴い、これまでの対応が困難になっている。国での取り組みが始まったように、地域の住民が役割を持ち支え合いながら、活躍できる地域共生社会の実現が必要である。

① 年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが一緒にサービスを受けることのできる富山型のサービスが求められていると思うがどう考えるか。

② 個人情報保護の壁を越えるため、地域支え合い活動推進条例の制定が必要ではないか。

できるよう、在宅医療・介護連携の推進や、29年度の介護予防・日常生活支援総合事業の実施など37年の地域包括ケアシステムの構築に向け取り組んでいるところである。国においては、縦割りの公的福祉サービスの見直しを進めることとしており、国の動向を注視しながら効果的・効率的なサービス提供のあり方について検討していく。

② 災害時要援護者支援制度を推進しており、現状において、地域住民や団体等が連携して行う地域の支え合い活動が円滑に行われていると認識しており、今後とも地域の支え合い活動の充実に努めていく。

その他の質問項目

① 政治姿勢(LRTの効果など)②民間団体の活用と市民協働のまちづくり③子ども・若者・ひきこもり支援(児童相談所など)④生活困窮者自立支援(一時生活支援事業など)⑤ろうあ者の居場所づくりと介護⑥性犯罪・性暴力撲滅と被害者支援⑦教育行政